

ボランティア論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：3 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：准教授・上田耕介

科目担当者（職位・氏名）：非常勤講師・坂口奈央、非常勤講師・大吹哲也

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識・技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：39

■ 授業概要

現代社会のさまざまな領域で展開される多様なボランティア活動の意義を、個人と社会とのつながりから考察し、学習する。地域コミュニティ、被災地における多様なボランティア活動など具体的な取り組みを紹介し、その解説を行う。こうした学習を通して、ボランティア活動の社会的意義、地域における意義、今日の医療・福祉における必要性や位置づけ、活動のあり方に関する基本的知識を修得する。

■ 到達目標

1. ボランティア活動に関する学問的な基礎知識を身につけた上で、その視点から実際のボランティア活動について考察できるようになる。
2. 現代社会におけるボランティア活動の多様性を理解することができる。
3. 地域社会におけるボランティア活動の意義を考察できるようになる。

■ 教育内容

健康支援と社会保障制度

■ キーワード

地域福祉、社会参加、地域づくり、利他性、ボランティア、NPO、災害

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	ボランティアを考える視点	ボランティアが登場する歴史的な背景を、人間の生活のあり方の変化に即して解説する（講義）	上田
2	ボランティアの社会的意義	ボランティア活動が有する社会的意義について理論的に解説する（講義）	上田
3	ボランティアをする側と受け入れ側	ボランティアをする側の動機とともに、受け入れ側の取り組み（ボランティアコーディネーション）について理解を深めるための解説を行う（講義）	上田、大吹
4	ボランティア団体と NPO 法人	ボランティア活動を行う組織の一つに、NPO 法人（特定非営利活動法人）がある。この法人格ができた背景や岩手県内の NPO 法人の取り組みについて解説する（講義）	上田、大吹
5	国内における災害とボランティア	災害ボランティアの経緯、災害の特性に応じたボランティアの動きについて解説する（講義）	上田、坂口
6	災害ボランティアの事例	災害ボランティアの事例（東日本・能登）をもとに、現場で求められる変化について解説する（講義）	上田、坂口
7	災害ボランティアとは何か	平時におけるボランティアと非常時に求められるボランティアを比較しながら、災害時に活動するボランティアについて解説する（講義）	上田、坂口
8	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッションを実施し、これまで学習した講義内容のふり返し、意見交換を行う（グループワーク）	上田、大吹、坂口

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

毎回の提出物（50%）および最終ワークの内容（50%）によって評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

■ 教科書

講義は、講師が用意した資料によって行う。

■ 参考書・参考資料等

講義において適宜文献を紹介する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

受講後、講義内容のふりかえりを90分程度すること。

この他、講義の前後に予習・復習の課題を提示することがある。（それぞれ90分程度）

■ 担当教員からのメッセージ

日常でもよく目にするし、自分や家族も関わったことがある人も多い、そのような身近なボランティア活動を「学問」的にふり返ってみましょう。なぜボランティアが登場するのか、その意義は何か、課題は何か、といったことを学びながら、医療福祉に携わる人間として何ができるのか、考えていきましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 13、uyeda★iwate-uhms.ac.jp、研究室への来訪の際には、事前にメール

（※メールの際は★を@にしてください）

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

大吹：岩手県 NPO 交流センター センター長、いわて連携復興センター 事務局長

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

ボランティアの現場でえられた多様な知見を授業内容に反映させる。